

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

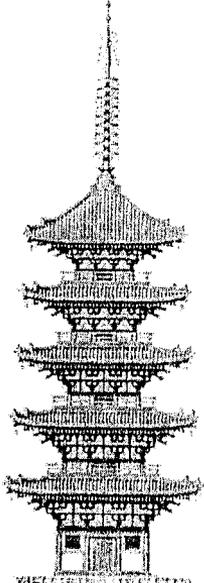
☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

白装束の由来

皆さん、こんにちは。四月になりました。お花見には行かれませんでしたでしょうか。今月前半は花冷えのする日が続きましたが、だいぶ暖かくなってきました。お花見の時期はちよつと寒かったですよね。覚王山祭り(春祭)の日もあいにくの天気でした。事務局の皆さんも、出店している皆さんも、本当に寒そうでした。お疲れさまでした。夏祭は天候に恵まれるといいですね。

さて、先月は「お遍路の順番」をご説明しました。「順打ち」、「逆打ち」、「通し打ち」、「区切り打ち」など、いろいろな回り方があることをご紹介しました(詳しくは前号をご覧ください)。今月は「お遍路さんの衣装」について調べてみました。



「お遍路さんの衣装」と言えば、ご存じ、白衣に輪袈裟、手甲、脚半を身に付け、数珠を手にした白装束です。腰には、納経帳を入れた布袋(さんや袋)をぶら下げます。

白衣はもともと「死に装束」です。巡礼ブームに沸いた江戸時代には、不治の病の治癒を願った巡礼者が、お遍路の途中で倒れて亡くなるのが日常茶飯事だったそうです。そこで、「せめて手厚く弔いたい」と願った「お接待さん」たちが、白装束を用意して提供したのが「お遍路さんの衣装」の始まりといわれています。「そりゃあ、知らんかったわ」と言う方も多いことと思います。

「お遍路さんの衣装」の定番は下の図のとおりです(高知県東

部四国霊場めぐり」のホームページ

<http://www.ataka.or.jp/haru0>

3/heno/he_kuso4.html を参考

にさせて頂きました。「金剛杖」

「納経帳」、「納め札」は最低限の

必須アイテムだそうです。とく

に、「金剛杖」は弘法大師の分身

と言われ、大切に扱わなくては

なりません。

菅笠には「同行二人」と書くそ

うですが、これは「弘法大師と道

連れ」という意味のようです。お

遍路もいろいろとお作法やしき

たりがあつて、勉強が必要です

ね。

本場四国では、一番札所の霊

山寺（徳島県鳴門市）の門前に

「門前一番街」というお店があ

るそうです。巡礼アイテムや土

産物を買っているお店ですが、

白装束一式が1万2千円前後で

用意できるそうです。

覚王山スタイル

「日本最小の八十八カ所霊場」

に覚王山霊場ですが、白装束で

回っている方は見かけないです

ね。「霊場巡りは必ずこの服装」

と決まっている訳ではないそうです
が、やはり白装束を身にまとうと雰
囲気が違います。

覚王山霊場は全国的には無名です。
地元（愛知県下）でもあまり知られて
いません。しかし、「日本最小の八十
八カ所霊場」は観光名所になるかもし
れませんね。そのためにも、いずれ、
覚王山スタイルと呼ばれるような独自
の「お遍路の衣装」を考えてみよう
と思います。

では、また来月お会いしましょう。

